



No. 59

昭和63年9月15日発行

路材協会報

路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町2-13(深津ビル)
〒101 Tel (03)861-3656・3605

目次

アメニティ時代の幕明けと我が業界	常任理事 眞壁 昶	1
膜厚測定について	神立 敬之	4
溶融塗料の屋外保存について	安田 知行	10
北から南から 中部地区だより	竹内喜代史	14
時事経済メモ		16
今後よろしく	事務局長 今村 晴知	18
事務局連絡		19
異常続きのこの夏を思い起して		20



アメニティ時代の 幕明けと我が業界

常任理事 眞 壁 昶

文才の無い私如きに、路材協会報の巻頭文を自由に書くように、との協会事務局からのご指示を戴き、一度は辞退したのですが、結局は協会事務局の強い要望に押し切られて、協会も罪作りの事をするものだと恨みつつ雑文の筆を取ることになりました。

前任者の後を受けて、昨年4月から道路材料の担当となり、路面標示材協会にも関係させて戴くことになり、ちょうど一年半になりました。

私にとりましては初めての分野であり、どのような世界か大いに興味を持つと同時に、当初は試行錯誤の連続でした。

道路を眺めて白線、黄線（後にハミ禁とわかる）に横断歩道、さらには多種に亘る標識を見るにつけ、日頃自動車を運転する機会を持ちながら、いかに道路材料に無関心であったか大いに恥入ると共に、改めて直接社会に貢献出来、又、その一端を担っているかを再認識することからスタートしたのが実情でした。

しかし今はあたかもベテラン顔でもの申すのも一興でしょうか。

さて、我が国が第二次大戦の敗戦から40余年、奇蹟の復興を遂げましたが、この間一貫して言えることは、我が国政府が国内産業の助成・育成による輸出促進と、国土開発の名の基に公共事業の促進政策を打出し、推進して来た事によるものと思います。

この両輪が国民の勤労意欲と相まって、近年のオイル・ショック、円高ショックと言う大きなトレンドを乗り越え、そしてある意味ではこの1～2年で、完全に我が国は経済構造の改革をやったのけたと言えるでしょう。

国力の充実により先進国の仲間入りをし、力を付けると、今度は新たな外圧が我々にも掛かって来ます。

ある著名なオピニオンリーダーがこれからは「アメニティの時代」と説いています。

世界主要国国民にふさわしい生活、もっと生活を良くするためにお金を使い幸福な生き方をしようと言い、又、事実昨年来、国を挙げてお金を消費し、景気が上向いたのも事実です。その需要をリードしたのは、消費であり、住宅着工の増加、そして公共事業・設備投資です。

しかし現実には未だ充分我々に反映されていないのが実感ではないでしょうか。

「働くことが生き甲斐い」と教えられて来て、急に今から快適さを求めようにも戸惑いが先に立ちます。

しかし我が国政府は目差す方向を示唆してくれました。

それはアメニティという目標です。

自治省は今年度から「ふるさとづくり特別対策事業」の第1次分、163自治体の262事業、総事業数、約4,500億円の指定を決め、さらに第2次分も策定と聞きます。主なものでも「リゾート地域整備計画」、「アメニティ対策推進プロジェクト」、「地域間交流推進プロジェクト」、「スポーツ振興・健康づくりプロジェクト」、等が計画されていますし、だからこそ、そこに道路が敷かれ、その周辺が整備される事になります。

そして、それが第10次道路整備計画と相まって真の「アメニティ時代の幕明け」に結び付く事となります。

その意味では、我々交通安全施設関連事業の一翼を担う道路材料メーカーが、取組むテーマには事欠かないと思います。

より一層の高品質製品を安定的に供給し、かつ又、新製品の開発はもとより、その周辺商品の開発、さらには近代化、合理化等、協会各社が一丸となって初めてユーザーの厚い信頼が得られる事になりますし、今、その真意が問われているのではないのでしょうか。

然るに各社が相変らずの「値引きと過剰サービス」という旧態依然とした営業スタイルから脱皮出来ずにいるとしたら、我々は未来から取残され、落ちこぼれて行きます。

「何と甘い事をほざいていることか」と思われようと、今こそ的確な判断と対応により、ユーザーのさらに先を見極め、発注元、施工諸会社とも連携を深め、材料・施工機・工法等のレベル向上を企てること、そして利己的無用な競争から、共栄・公正な競争へ転換することこそが関連業界全体が安定した発展につながりビジネスのカギになると思います。

これが本当の「アメニティの時代」の到来になると思うわけです。

我が業界は、そのターニング・ポイントにある様に思われますが、諸兄のお考えは如何でしょうか。

(神東塗料㈱ 東京特品路床部長)

膜厚測定について

神立敬之

1. はじめに

路面標示に限らず、鉄鋼防蝕、建築等の塗装工事において、それぞれの塗膜機能や塗膜性能等の品質保持と原価管理の点から、必要な塗布量や膜厚が契約仕様書に明記されており、施工時の塗布量および膜厚の管理は入念に実施する必要がある。

ところで、路面標示工事の材料使用に関して、施工要領書等によれば、レーンマーク工事で、常温用や加熱用トラフィックペイントを用いる場合、単位面積当りの塗布量で示される事が多く、溶融用を用いた区画線工事等には膜厚（線厚）で示されるか、単位面積当りの塗布量との併記で示される事が多い様である。

レーンマーク工事の塗布量管理については、キャリブレーションテスト⁽¹⁾および、トラフィックペイントに見る自走式機械施工法⁽²⁾で、これまでに本会報で施工管理の一端が述べられており、今回は塗装膜厚の管理を目的とした一般的な膜厚の測定方法と路面標示への対応として紹介します。

2. 膜厚測定器の種類

塗装塗膜の膜厚を測定する方法は、施工中に行う湿潤膜厚測定（ウェットフィルムゲージ）と、塗膜が硬化乾燥してから行う乾燥膜厚測定（ドライフィルムゲージ）とがあり、その種類を表-1に示した。

表-1 膜厚測定器の種類



3. ウエット膜厚計と測定方法

塗装直後のウエットフィルム状態時の塗膜の厚さを計測する器具で、いずれも塗膜面に接触汚染する事により厚さを求める。被塗面は平滑な面であれば、金属、プラスチック、ガラス板など何れの素材にも適応出来る。

1) ウエットシクネスゲージ(くし形)

塗装中や塗装直後のウエット膜厚をチェックするのに軽便なタイプで図-1のように両端が同じ高さになっている、くし状のゲージを被塗面に垂直に接触する事によって、塗料が付着する山と付着しない山を目視確認して膜厚を読み取る形式で $25\mu\sim 500\mu$ 、 $100\mu\sim 1,500\mu$ など測定範囲によって、タイプの異なるゲージがある。

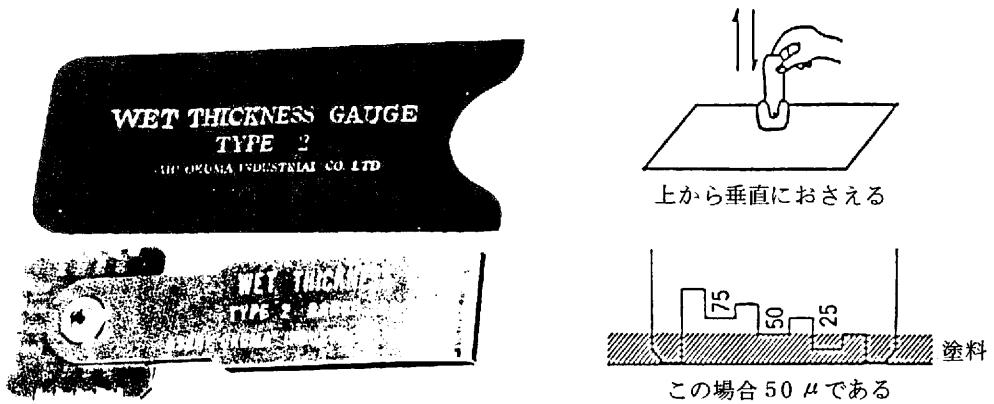


図-1 ウエットシクネスゲージとその測定方法

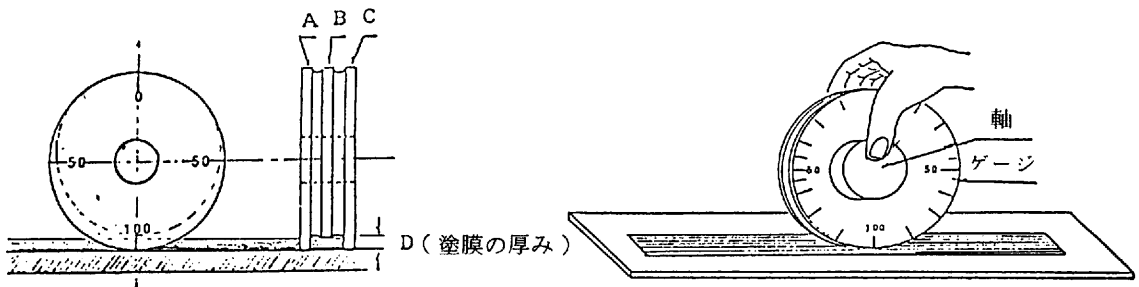


図-2 ウエットフィルムシクネスゲージとその測定方法

2) ウエットフィルムシクネスゲージ(ロータリー形)

図-2のようにA部とC部が同心であり、B部が偏心しており、D部が最高膜厚を示す構造のロー

タリー形測定器である。測定方法は、最大目盛の位置を塗膜面に置き、軸を親指と人差し指ではさみゆっくりころがして、塗料がB部に最初に附着した点の日盛を読み取る形式で測定範囲によって、0～100μ、0～200μ、0～500μ、0～1500μなど数種のスケールの異なるゲージがある。

3) P fund's フィルムシクネスゲージ(レンズ形)

図-3のように円筒に取り付けられた所定の曲率半径を有するレンズを塗膜面に押圧し、レンズ面に附着した塗膜の環状痕の直径を附属するスケールで測り、換算表により塗膜の厚さを求める形式で、曲率半径と痕跡直径との間には次の関係がある。

$$t = \frac{D^2}{16R}$$

ここに t = 膜厚
R = 曲率半径
D = 痕跡直径

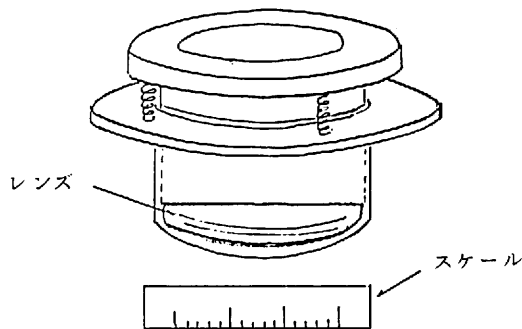


図-3 P fund's フィルムシクネスゲージ

4. ドライ膜厚計と測定方法

乾燥塗膜を非破壊計測する機器で、この種の膜厚計の種類は豊富であるが、その原理は永久磁石式、電磁式、高周波式等で考察されている。

1) マイクロテスト(永久磁石式)

マイクロテストは鉄鋼材素地の上に施された塗装、各種ライニング、非磁性金属等の膜厚を、永久磁石の磁力を利用して計測する電源を必要としない携帯形の膜厚計である。

図-4のように永久磁石を用いた測定子を、膜厚を介して被塗面鋼材に吸着させ押ボタンを含めた一連の釣合いのとれたレバーの中心軸に目盛の付いたダイヤルを結び付けたもので、膜厚の薄いもの程吸着力が大であり、厚いもの程吸着力が小さいことを利用して、ダイヤルの回転により測定子が塗膜面から切り離される点を捉えて計測する。

測定範囲は、0～50μ、0～500μ、0.2～3mm、2.5～10mmなど薄膜タイプから厚膜タイプ

迄そろっており、広範囲の膜厚の測定ができる。

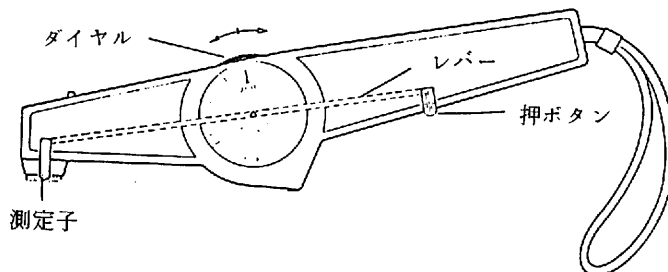


図-4 マイクロテスト

永久磁石式の膜厚計で、この他によく使われているものにエルコメーターがあり、これは二点接触式でメーター指針から膜厚を読み取る形式のポケットタイプの膜厚計である。

2) 電磁式膜厚計

磁気応用による非破壊式の代表的な膜厚計で、鉄鋼材素地の上に施された塗装、メッキ、ライニング、その他非磁性皮膜又は、絶縁性皮膜の膜厚測定に用いられる。

その原理は、図-5のように鉄芯入り電磁コイル(プローブ)の先端を鉄鋼材に近づけると、その

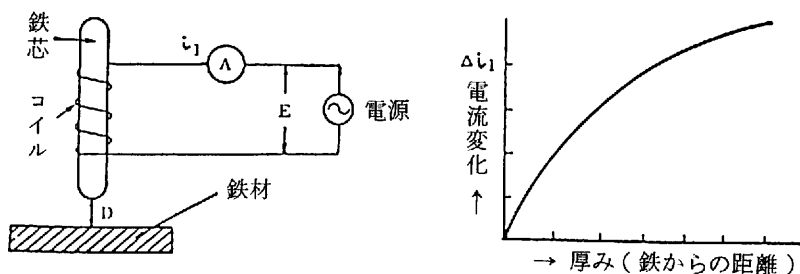


図-5 電磁式膜厚計の原理図

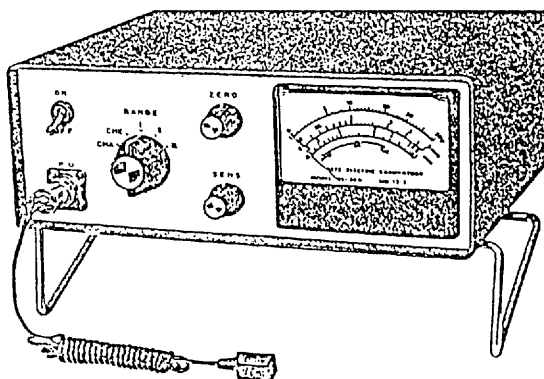


図-6 電磁式膜厚計

距離のわずかな変化に対応してコイルを貫く磁束数が変化し、コイル両端にかかる電圧が変化する。

この関係は、鉄（強磁性体）の上に塗装、メッキ、ライニング等（非磁性体）の膜がある場合も同様で、この表面に電磁コイルを当てて、膜の厚みに比例して生ずる磁束数の変化を電流計に接続し、膜の厚さを電流計の振れとして読みとる。

測定範囲は、 $0 \sim 50 \mu$ 、 $30 \sim 500 \mu$ 、 $0.3 \sim 8 \text{mm}$ 、等レンジを切変えて測定する事が出来る。

（図-6 参照）

3) 高周波式膜厚計

非鉄金属素地（アルミ、銅、真鍮、ジュラルミン、ニッケル等）の上に施された、塗装、ライニング、酸化被膜等の絶縁性被膜の膜厚を非破壊で渦電流現象を応用して測定する。

その原理は、図-7のように一定の高周波電流が通じているフェライトコア入り誘導コイル（プローブ）の先端を非鉄金属に近づけると金属導体に渦電流が発生する。この渦電流は誘導コイルと金属面との距離に応じて、すなわち膜の厚みによって変化し、このため誘導コイルのインピーダンスの変化となってあらわれる、この厚みに応じたインピーダンスの変化量を電流計の指針の振れとして読みとる。測定範囲は、 $0 \sim 10 \mu$ 、 $0 \sim 200 \mu$ 、 $0 \sim 800 \mu$ 程度である。

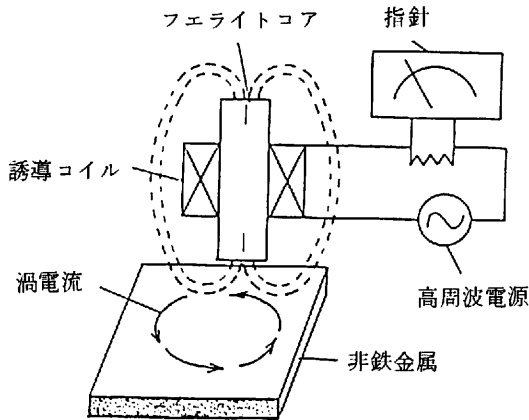


図-7 高周波式膜厚計の原理図

又、最近では、鉄鋼面用、非鉄金属面用の多機能な膜厚計として、電磁式・高周波式兼用型で、測定値をデジタル表示するポケットタイプの膜厚計が出現している。

4) 測定工具

鉄板、アルミ板、プラスチック板、スレート板などの厚みや、その上に塗装やライニングした膜厚を測定工具を用いて直接測定する方法で、ノギスや、マイクロメータなどが使われている。

5. 路面標示の膜厚測定への対応

アスファルト舗装路面やコンクリート舗装路面、その他タイル舗装路面など、表面粗度が大きくて、非電磁性的な素地に、塗料とガラスビーズを併用して施される路面標示の膜厚測定には、ここに紹介した平滑面でのみ精度が信頼出来るウェット膜厚測定器や電磁式が主流のドライ膜厚測定器では不可であるが、テストピース採取する事によって、間接的にこれらの測定器を活用しながら路面標示工事の現場における塗布量、膜厚の施工管理を実施する。

1) ウェット膜厚管理

ウェット膜厚とは、塗装直後未だ揮発分の含まれたままの状態での膜厚を示すもので、次式から、

与えられた塗布量に対するウェット膜厚を求めて

$$\text{ウェット膜厚}(\mu) = \frac{\text{塗布量}(\text{g}/\text{m}^2)}{\text{塗料の比重}}$$

吸い込みのない平らな路面であれば、直接くし形のウェットシクネスゲージで測定するか、アルミ板などのテストピースに塗布採取する事によって施工中のウェット膜厚を測定して、塗布量の過不足を確認する。

(例) 加熱用トラフィックペイントの設計仕様塗布量 $0.4 \text{ l}/\text{m}^2$ の場合、この時の塗料比重 1.7 とすると塗布量は $680 \text{ g}/\text{m}^2$ となりウェット膜厚 (μ) は、 $680 \div 1.7 = 400 \mu$ が必要である。

2) ドライ膜厚管理

塗装後乾燥した膜厚の測定器は電磁式が主流であることから溶融用などを施工した非電磁性路面上における膜厚測定は不可であり、また乾燥塗膜を単離した膜をマイクロメーターで測定したりする事も現場管理上不可である。

従って、溶融用施工の場合予め寸法のわかった金属板に塗布採取して、テストピースとし、ノギスやマイクロメーターを用いて外側寸法を測定して、金属板との寸法差から塗膜の厚みを求めて膜厚(線厚)の過不足を確認する。

6. おわりに

路面標示の膜厚管理は、アスファルト舗装はじめ被膜面の表面粗度による塗料のロス、すなわち、路面の凹凸を埋めるためのレベリングコースによる仕上り外観の薄膜化と塗膜面の凹凸残存の問題があり、実路面上で直接膜厚測定してもあまり意味がないものと思慮する。

したがって、常温用や加熱用におけるキャリブレーションテストによる塗布量の確認や、溶融用におけるテストピース採取による膜厚の確認の実施は、路面標示工事の要件を十分勘案した施工管理の手段として、有意義な対策であり、ここに一考を述べた次第である。

(神東塗料(株)東京建設テクノ開発部東京路床材課長 路材協・技術委員)

参考資料

- (1) 路材協会報 №11
- (2) " №52

溶融塗料の屋外保存について

安田知行

1. はじめに

路面標示用塗料（3種）が劣化する原因としては、

- ① 施工時に於ける熱による影響
- ② 施工後の紫外線等による影響
- ③ 塗料を粉状で長期保存したことによる影響
- ④ 溶融中に異物の混入による影響

等が考えられる。

①及び②に関しては本会報にも報文がありますので御参照下さい。今回は③の保存について、それも屋外に保存した場合の製品に及ぼす影響について考えてみたいと思います。

3種塗料を保存する場所は倉庫等の建物内が一般的であるが、テントによる簡易倉庫や、場合によってはやむを得ず施工現場近辺の屋外にシートを被せる方法で一時保存されるケースもあると思われる。この屋外保存の場合でも季節的に最も条件の厳しいと思われる夏期の場合に製品にどのような影響を与えるか簡単なテストを試みたので報告します。

2. テスト方法

テスト方法は製品6袋（白、黄色各3袋ずつ）をパレットに積みビニルシートで覆い日当たりがよく風通しのよい場所に保存した。

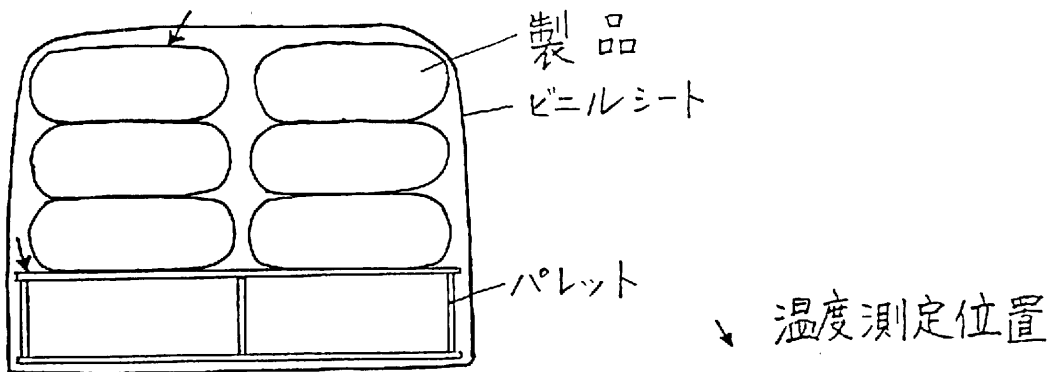


図-1 屋外保存テスト概略図

1 か月ごとに製品1袋(上部より)を全量溶融し、変化の度合をチェックした。

又、参考として地上1.5 mの日陰の気温及び図-1の矢印に示す位置でのシート内の温度を測定した。
なお、テストは梅雨明けより開始し3か月間実施した。

3. 測定結果

1 か月ごとに1袋を全量溶融し測定した品質の結果は表-1の通りである。

測定項目は、軟化点、45度0度拡散反射率、黄色度、圧縮強さ、色差及び溶融温度の6項目とした。
各項目ごとの傾向は概ね次のようになっている。

軟 化 点 少しずつではあるが上昇傾向にある。

45度0度拡散反射率 少しずつ低下しつつあり明るさが減少する傾向を示している。

黄 色 度 数値が大きくなる傾向にあり、わずかに黄色味の方向に変化していることを示している。

圧 縮 強 さ 月ごとに上昇傾向にあり硬さ(もろさ)を増しつつある。

色 差 ほとんど変化していないようである。

溶 融 温 度 測定者の主観が入るが流れはあまり変化していないようである。

又、3か月間の気温及び温度の測定値は図-2に示す通りである。

保存中のシート内の温度は晴れた日には最高54℃まで上昇(正午の時点)しており通常の気温に比べ2倍近くになっており、くもりや雨の日との差が著しい。

実際には、本実験のように少い袋数でなく多くは数トン単位で保存されるであろうから積み上げられる高さ等諸条件が異ってシート内の温度はさらに上昇する可能性もあろう。

今回の実験では各測定値はわずかずつ変化しているが、性能的に問題となるような値までは到っていない。短期間であればこの程度の条件下でも性能上問題にはならないものと思われる(製造、検査のパラッキもあり、もっと多くのデータが必要となるが)。

しかし、このまま保存を継続した場合は高温による影響で、ある時期より急激に品質低下を来す可能性が考えられる。

ご案内のように塗料の主原料の一部である結合材及び可溶剤は空気中の酸素による酸化を受け易い性質があるため室内保存であってもある程度の劣化は避けられない。

このための保存には直射日光を避け、風通しのよい気温の上昇の少ない場所を選び、早目に使用することが肝要である。

図-2 正午の気温・温度測定値及び気温

- 製品上部の温度
- パレット上の温度
- 地上1.5mの日陰の気温

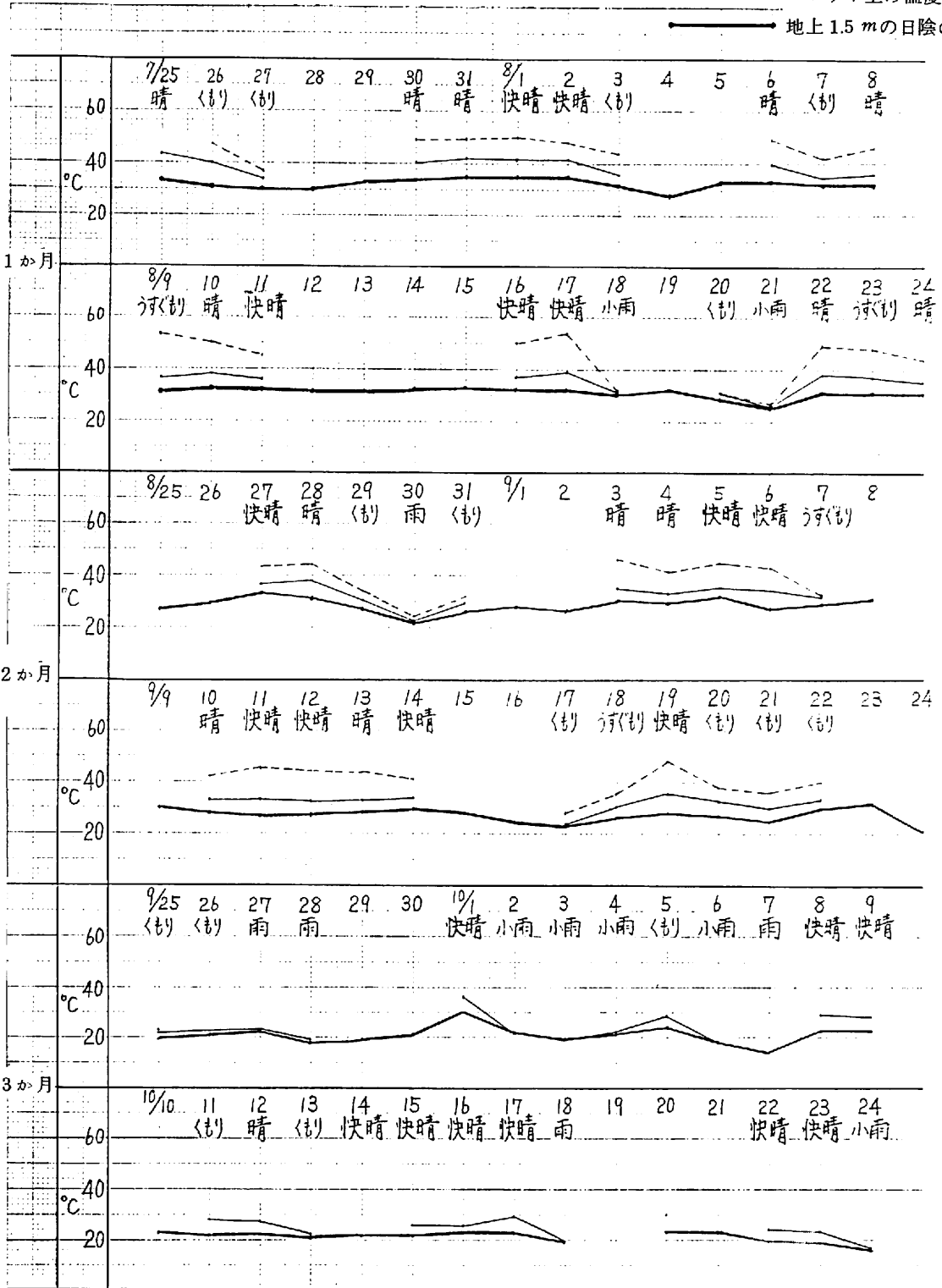


表-1 屋外保存による品質測定結果

項目	色別	白				黄色			
	月	0	1	2	3	0	1	2	3
軟化点 (°C)		110.2	111.5	110.8	111.8	100.8	100.0	101.5	102.5
45度0度拡散反射率 (白に限る)		81.1	80.8	80.9	80.7	—	—	—	—
黄色度 (白に限る)		0.049	0.057	0.053	0.056	—	—	—	—
圧縮強さ ($kg \cdot f / cm^2$)		253	249	257	276	284	278	293	316
色差 (ΔE)		—	—	—	—	1.84	0.88	1.80	1.46
熔融温度 (°C) (参考)		185	185	190	185	170	170	165	170

4. まとめ

以上、3種塗料の屋外保存について、簡単なテスト結果を報告させていただいた。

シート内の温度は最高54°Cにも達しており好ましい状況ではない。又、本実験は袋数もデータの数も少く、原料の違いや製品袋の材質の違い等チェックすべき項目も多く残っており問題点も多いが実験結果をみるかぎりには苛酷な条件でも3か月程度までなら性能上問題はなさそうである。

塗料が時間の経過とともに劣化することは避けられず、気温が高いほど酸化が促進され劣化は早まるはずである。

よって、保存には直射日光が当らず、風通しのよい気温の上昇を少くした場所を心掛けて頂くとともに、先入れ先出しの実施で早目に使い切ることが望ましい。

(信号器材株式会社技術部技術課長、路材協・技術委員)

北から南から

中部地区だより

地区幹事代行 竹内喜代史
(菊水ライン(株))

暦の上では立秋も過ぎましたが、厳しい残暑が続いています。

夏という季節は、この時期に盆休みがある為か、先祖とか故郷とかいった日頃忘れがちな人間的営みを思い出させるところがあります。

更に各地で、夏祭りとか納涼花火大会とかが繰りひろげられ、ことさら郷愁を煽っている趣きがあるようです。当地区でも、この時期恒例の夏の行事が行なわれ、沢山の人々が見物に訪れたそうです。

例えば、7月に始まり8月13日から16日迄の徹夜踊りを経て9月迄続く「郡上踊り」、尾張津島天王まつり、愛知県一色町の大提灯まつり、三重県大王町の波切大念仏、四日市富田けんか祭、静岡県伊東の安針祭等や、名古屋市北区の矢田川べりでの「第25回全国選抜花火大会」、岐阜市の「第43回長良川全国選抜花火大会」、大垣市「揖斐川花火大会」、伊勢市宮川河畔の「全国花火大会」、熱海市「海上花火大会」、或いは静岡県新居町の手筒花火等、いずれも大いに賑わったそうです。

一方、地域の活性化等の願いを込めた各種イベントも、この夏は全国各地で行なわれているようですが、当地区内でも「ぎふ中部未来博」が現在開催中で、7月22日夜にはその最大イベントとして「トミタ・サウンドクラウド・イン長良川」が約31万人を集めて行なわれました。

この催しは、世界的シンセサイザー奏者富田勲氏の企画による壮大な野外コンサートで、オーストリアのドナウ川での「宇宙讃歌」、米ハドソン川での「地球讃歌」に続く、三部作のファイナーレ「人間讃歌」をテーマとして、光(レーザー)と音の一大ペイジェントとして行なわれたものです。

2時間に約4億円を投じたこの「人間讃歌」は、「労働の疲れを癒すための快楽でなく、人間が生きていくための主となる価値，心を満たす精神的価値の夜明けを告げる宣言」として、未来博にふさわしい企画とされています。

来年は名古屋市で市制100周年記念のイベントとして、世界でも恐らく初めてであろう「世界デザイン博」が市内三会場で開催されます。

「ひと・夢・デザイン — 都市が奏でるシンフォニー」をテーマに、生活・文化・産業全般に及ぶデザインの世界を名古屋の街に展開しようという大規模な博覧会です。

名古屋は、戦後都市計画により生まれた広い道路・整然と区画された街区等により、一時期全国都市の見本とされました。しかし、その反面昔ながらの町並みが分断されたり、路地が消えてしまい、心とむ情緒に乏しくなってしまう、「白い街」の別称が生まれた事もありました。

機能面では他の大都市をしのぐ一面をもつ名古屋ですが、今後このデザイン博を機に、機能性と美・快適性の調和する、デザインというヒューマニズムに支えられた創造的都市へ脱皮を狙っているという事です。

最近のキーワードの一つに「アメニティ（快適性）」という言葉がありますが、道路一つとっても、できるだけ多くの交通量をできるだけ速くという合理的な思考の一方で、人間を基準としたスピードやサイズのヒューマンスケールの街づくりが求められているという事でしょうか。

最後に中部地区委員会は東海四県を担当、会員会社は10社で運営しております。今後も益々お互いの親睦を深め、協会の一層の発展に努める所存でございます。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



時事経済メモ

◎ 世界的な利下げの動き

ここ2、3か月以来、不気味な動きをみせていた先進諸国の金融政策は、8月下旬にいたって相次いで明確な利上げに踏み切った。

すなわち、西独連銀は8月25日の理事会で公定歩合を0.5%上げて年3.5%へ、スイス中銀も同日0.5%上げて年3%へ、またイングランド銀行も金融市場への貸出金利(公定歩合に相当する)を1%引き上げて年1.2%とし、フランス中銀も市場介入金利を0.25%上げ、年7%へ、さらにイタリー中銀も公定歩合を0.5%上げて、年1.25%としたのである。

わが国の場合は、まだ利上げに踏み切っていないが、今後の物価、為替等の成り行き次第では、その可能性もないわけではない。

このような今回の動きの背景は、何れの国も国内インフレの防止と自国通貨の防衛とを狙った措置であることはいうまでもない。しかし、同時に米国が先に実施した公定歩合引き上げに対処する意味もあったとみられる。

卒直に言って、先進諸国は利上げでもって自国通貨を強化し、併せて高まりつつあるインフレ圧力を回避する方向に走り出したかたちである。ここにいたっては、85年以来のプラザ合意に基く政策協調体制も、まさに新たな視点からの見直しを迫られる深刻な事態となったことを否定できない。

昨年10月の世界的な株暴落は、米国、西独、日本の連動利上げによる先進国間の協調の乱れが引き金となったが、今回の場合についても、その点を憂慮する見方もなくはない。しかし、差し当っては、9月に開催を予定される一連の国際通貨・金融会議に大きく期待するほかはない。

若し、それまでの間にわが国が、利上げを断行せざるをえない事態に追い込まれるとすれば、金融・資本市場あたりには一時的にしろかなりの混乱が出ないとは断定できない。

ともあれ、政策選択の極めて難しい昨今の状況を考えると、当分間は内外の政策動向(金融政策のみならず財政政策等をも含む)には目を離せない、と同時に、なまじの楽観は禁物であるといわなければならない。

◎ 内需型成長へ構造変化 — 経済白書より —

8月上旬に63年度経済白書が発表された。「内需型成長の持続と国際社会への貢献」という副題がつけられている。

白書全体は五章から成り、円高定着の条件下で、意外と言えるほどの好調を示す日本経済の現状と問題を幅広く分析し、成長持続についても地道な考察がなされている点が好評のようである。

やや玄人向けの、難解すぎるとの評もなくはないが、全体の記述の中から以下にその要点を摘記してみよう。

昨年後半から国内景気が急拡大したのは、円高メリット、金融緩和などに加えて、6兆円規模の政策の緊急経済対策と民間部門の積極的適応等によるものである。とくに企業は円高に伴って相対的に採算がとり易くなった国内販売に重点を指向する戦略に転換、併せて新規事業への進出や新製品の開発など、幅広い角度から経営再構築の推進に注力した点を指摘している。

このような企業行動の背景には、通信・情報処理分野の技術革新があるが、白書は技術革新の進展が生産性上昇、ニュービジネスの台頭など産業の活性化につながり、設備投資を促進し、これが日本経済の中期的発展の源泉になると強調している。

一方、消費者の動きをみると、62年度は耐久消費財の高級化が目立つ。これには株や土地の値上り益など、いわゆる「資産効果」の影響も見落せない。と同時に、消費者ニーズの高級化、多様化に対し企業側がいち速く、柔軟に対応した点を高く評価している。

内需型への構造変化、対外的な水平分業の進展、為替調整等の効果で、日米の経済構造も変りつつある。しかし、米国の双子の赤字はいぜん大きく、日本の輸出も増加傾向にある。「不均衡が再び拡大する危険もある」と白書は警告している点はまさに軽視できない。

また円高の過程で、内・外の価格差をはじめ、長時間労働、住宅・社会資本の遅れ、資産格差等々の国民生活面では、豊かさの実感が乏しい事態を指摘している。

白書は、こうした諸課題を解決し、内需型経済構造を定着させるためには、日本経済の潜在力を国民生活の豊かさに結びつける“豊かさの循環”へ転換する必要があると言っている。

そのための具体的政策としては、例えば価格に関する規制の緩和、農産物の輸入自由化等で内外価格差を縮小するなど、また国民生活の向上を阻害している規制の見直しを求めている。「豊かさの追求は、新たな需要を生み、成長を支える」という。規制緩和はまた民間活力を引き出し、設備投資の増加要因になるほか、とくに効率化の遅れている非製造業の生産性向上に影響し、中期的経済成長を促進するものだと指摘している。

(63.8.29 おばら)

今後よろしく

事務局長 今村 晴知

7月から当協会に入ることになりました。

想えば、私自身、当協会とは十数年前、協会が改組・設立された時点から縁があり、会員の立場で当初の技術委員から、さらには業務委員・理事をも勤めること約10年、その時々役分にたずさわっていたわけであります。そしてここ何年かはそれらの役目を離れていたのですが、本年春から全くフリーな立場になったのを機会に、協会の方でお世話になる様な話となりまして今日、非常に感深いものがあります。

協会には、これまで13年余り、小原専務理事（現相談役）がおられて内外面で大変なご努力をされ、さらには、歴代の会長・副会長のご指導や、各理事をはじめとして業務・技術両委員諸氏の熱意とご協力で今日の路材協が発展をみてきたものであります。従って今回、協会本部に入り前専務理事から実務を継承致すからには、その進展が緩むことあってはならないと思うものであります。

因みに、私の信条と致しますのは、誠実・熱意と信頼、そして調和であります。63年度の協会活動方針はすでに決まっております、その具体化に向け、各会議体が絞り込みと定常活動へ向いつつあるとき、それらの展開が円滑に進むよう準備、企画、調整していきたいと思っております。特に協会活動の原動力たる業務、技術の両委員会には、活力のある論議と実行が進みいくよう本部なりに努めてみたいと考えます。何とぞ理事・委員の皆様、そして賛助会員の方々、よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

なお、生産・出荷ほかの月次報告や、定例的需要調査など全体をできるだけ網羅しなければならぬものや、本会報の持続発展へ恒常的な原稿入手をはかることなどには、タイミングも重要ですので、業務ご多用を承知しておりますが、何とぞ各位のご協力を切にお願い申し上げます。

以上、簡略ながら誌上を借り、ご挨拶とさせていただきます。

事務局連絡

- レンマーク工業株式会社の本社及び工場が7月に移転されました。

(新本社) 広島市安佐北区安佐町大字あさひが丘1524番地 <〒731-33>

電話 082-838-0121

FAX 082-838-2220

(森城作業所)

広島市安佐北区安佐町大字飯室字森城6864番地 <〒731-11>

電話 082-835-2511

- 湘南化成株式会社が7月、新会員に加入されました。

(本社及び工場)

横浜市戸塚区上矢部町3537-8 <〒245>

電話 045-812-7253

FAX 045-812-7254

理事には取締役社長 桑山晴義氏

理事代理は取締役工場長 藤田治道氏

業務委員と技術委員は、加藤吉昭氏が兼務との各届出がありました。

- 日立化成工業株式会社の部名称が変更されました。

化成品事業部業務部 → 化成品事業部企画管理部へ。

- 日本ペイント株式会社の東京ダイヤルが直通方式で局番も変更されました。

坂口理事及び盛林業務委員は 03-740-1123

西村技術委員は 03-740-1139

- 東邦顔料工業株式会社の代表者(取締役社長)が、山崎林造氏から松原宏之氏へ変更されました。

- 丸善石油化学株式会社の代表者(営業第三部長)が人事異動により、井上剋氏から白尾三樹氏へ変更されました。又、関係課名が「販売二課」から「石油樹脂課」に改称されました。

- 5月会員へ配布の名簿に下記の如く誤りがありました。改めてお詫びいたします。

1頁 アトム化学工業(株) → アトム化学塗料(株) へ

3頁 信号器材(株) 電話 044-441-2191 → 044-411-2191 へ

5頁 東亜ペイント(株)理事 勅使河原壮也 → 勅使河原壮也 へ

10頁 日本ガラス・ビーズ協会 → 日本ガラスビーズ協会 へ

12頁 トーネックス(株) 課長 柴山征矢男 → 部長 へ

- なお、来る10月1日から、東邦石油樹脂株式会社は、親会社の東邦化学工業株式会社に合併されるということです。
- 東北化学株式会社の本社が、63年9月12日から下記へ移転されます。
新住所：東京都千代田区岩本町3-8-16 東誠ビル611 <〒101>
電話 03-5687-4106(代表), FAX 03-5687-4107

異常続きのこの夏を思い起して

- 今年の夏は例年になく雨が多くて、海水浴場はさっぱり商売にならなかった様だ。アルバイト学生の方もその余波を食ってひどい日にあったと近くの若者がこぼしていた。一つの異常なのだろう。そういえばこの夏、よい話ではないが、海では、港近くで漁船と潜水艦の衝突が二つも起り、東京湾では漁船が沈み、ペルー沖では潜水艦が沈んだ。変わったこともあるものだ。空では、軍用や民間の飛行機事故が様々な形で起りそのたびに人の命が失われた。もったいないことだ。陸では……………いや、あまり考えたくない。
- でも、身近なところ、我が国の交通事故による死者は、今のベースだと今年は年間1万人を越す可能性が大きい。8,466人にまで、死者半減の達成ができた数年前の頃は、路面標示用塗料の伸びもかなり大きかったりしたのだが、もしその間に、何らかの関係があると言いきれるなら、せめてそのような復活がどうかしてないものか、と思ったりもする。
- この会報59号が発行される頃、ちょうどお隣り、韓国のソウルでは、オリンピックの熱気がいやが上にも高まっている頃である。何年か前、もしあの時、名古屋市が投票で当選していたら今頃は名古屋で……と想いを至す中京人がいるだろう。でも、その代りかどうかは知らぬが、今年は中日ドラゴンズがセントラルリーグ後半戦の猛馬力発揮で、中京の人はうさ晴らしができてはいるはずだ。(ただし、全国巨人ファンにはしゃくの種だが……………) これも異常か……………ン?
- 瀬戸大橋の開通を記念して博覧会が開かれ、香川、岡山両県で、6か月で640万人の出入があったという。その華やかさの裏にフェリー便が落ち込むと予想されたが、何と、フェリーでのトラック便は相変わらず盛況という。理由は東四国と阪神方面との往復に瀬戸大橋う回ではくたびれるし費用もかかる。フェリーだと1時間ほど眠れるのが大きいということらしい。近代社会は心理、対価、時間などの要素が複雑に絡んで「需要」は変化する。だから、これは異常とは違うかも。

○ ○ ○

協会に入って初めての会報編集となりました。暑い時期に、それぞれの方へ執筆をお願いしご苦勞をおかけしましたが、おかげ様で無事、発行ができました。末筆で申しわけありませんが、ありがとうございました。今後とも皆様方のご支援をお願いいたします。(今村)